平成２３年度
山梨県地域活性化促進事業費補助金
取り組み事例集

平成２４年2月

山 梨 県

平成２３年度 山梨県地域活性化促進事業費補助金
取組事例一覧表

【チャレンジ事業支援】

番号	団　体　名	事　業　名	頁
1	子ども・教育と貧困問題を考える会	子どもの学びを支える人材育成と支援体制づくり事業	2
2	ＮＰＯ法人　みのぶジュニアコーラス	うた声とひびきあう、世界を歩く表現者とのＰＥＡＣＥプロジェクト	4
3	ＮＰＯ法人　芸術文化振興センター	第１回「富士讃美展ー富士を表現する作家達ー」と講演会	6
4	トム・ソーヤー倶楽部	セルフビルドコンポストトイレによる循環型社会推進事業	8
5	山梨不登校の子どもを持つ親たちの会	不登校児童・生徒の立ち上がり支援	１０
6	郷育フォーラム実行委員会	郷育フォーラム２０１１開催事業	１１

【協働促進事業支援】

番号	団　体　名	事　業　名	頁
7	ＮＰＯ法人　富士山クラブ	富士山クリーンアップ事業～不法投棄により長期間放置されている産業廃棄物の協働撤去体制の構築～	１２
8	ＮＰＯ法人　すてっぷ・あっぷる	子育て・親育ち事業	１４
9	ウィルパーティ	親子交流・社会参画推進事業　はじめのいっぽ	１８
１０	劇団さくらっ子	パフォーマンスで男女共同参画をわかりやすく推進していこう！	２２

【資料】

山梨県地域活性化促進事業費補助金交付要綱・・・・・・・・・・・２４

H23

チャレンジ事業

地域活性化促進事業費補助金 取組事例 ①

団体名	子ども・教育と貧困問題を考える会（通称タダゼミやまなし）
代表者名	深沢　久
所在地	甲府市上今井町１４１４－２

１．事業名	子どもの学びを支える人材育成と支援体制づくり事業
２．実施期間	平成２３年６月～平成２４年３月
３．補助金額	５００，０００円（事業費１，０００，０００円）
４．事業概要	**①人材養成事業** 子ども本人の要因に加え、家庭・学校・地域の因子がどのように子どもの学力格差を生み出しているのかを構造的に捉える学習を定期的に行い、学習支援の基礎理論と基本技法の根幹をボランティア共通の財産にする。 **②講演協働事業** 入り口は「学習支援」といえども、その背景には教育や福祉など様々な問題が複雑に絡み合っています。各分野で核になっている個人団体に呼びかけ「子どもの貧困を考える講演会」を開催。 低所得家庭への無料学習支援実践交流会などへ参加し、効果や運営の課題などを全国に紹介し、この事業を県内・県外へ広げます。 **③情報発信事業** 「貧困」という言葉は当事者に負担感や差別感を持たせてしまい、本当に支援が必要な方に正しく情報が伝わらない事も少なくありません。 通信媒体にホームページやメーリングリストという文明の利器を最大限活用し、それぞれの得意技を持ち寄り、成長し、深化し、発展させます。
５．得られた成果	**①人材養成事業** 子どもらから「なぜ勉強しなくちゃいけないの？どうせやっても無駄だし」等の質問攻めにあいました。先ずは学ぶ意欲をかき立て不安感を減らしてあげること。段取りを立てていくやり方自体を教え、自分に力がついてきているという実感を与えることが重要です。学習ボランティア養成講座を定期的に行う事で、高校受験対策のための学習支援にとどまらず社会に出ても基本となる技術を教えなければならないと常に意識しながらそれぞれが学習支援を行うようになりました。 英語と数学の根幹を勉強の苦手な中３生に習得させられる学習指導の技法をフリースクール講師に学び、使い勝手の良い教材に作り直しました。授業内容を「根幹」に絞り込み、週１回の授業で入試得点力を倍増させることも、夢ではありません。 **②講演協働事業** 今までは目の前にある本来の事業をこなすことだけで精一杯だったが、会外向けの講演会を行う事で、今後の本事業を支えるための貴重なパイプが出来た。 子どもの問題に関わる様々な研修会に参加しタダゼミの活動を報告しました。

	7/3学びサポート交流会（池袋）実践報告　NHKにて放送 8/20山梨県社会福祉士会子ども家庭委員会（朝気）実践報告 8/27民間教育連絡会（和戸）実践報告　山日新聞紹介 10/29学びサポート交流会（お茶の水）実践報告　NHKにて放送 11/27子どもの貧困を考える講演会（文学館）参加者96名　各新聞社YBSラジオ紹介 1/9教育について考える　映画「かすかな光へ」上映　参加者97名 2月中旬「元気が出る就学援助」かもがわ出版へ原稿執筆 **③情報発信事業** 無償の学習支援を行うには多くのボランティアを組織しなければなりません。 HPやブログで随時近況を伝えて参加を呼び掛けることで、昨年4人で立ち上げたタダゼミも今年度は講師27人スタッフ2名サポーター14名（参加中学生は昨年20名→今年51名）（甲府教室と南アルプス教室の2会場）となりました。 スタッフが増えたことで思春期の中学3年生と家事と仕事に疲弊しているひとり親家庭への応援（食材・学用品提供）もできつつあります。 メーリングリストで活発に情報意見をブラッシュアップすることで「ひとり親家庭の自立・不登校の子どもの出口つくり・在日外国人や障害を持つ子と共に学ぶ」など新たな地域の課題と輪作りの重要性を発見できました。
6．課　　題	反抗期の最中の中学生にとって話題・価値観があい、上下関係ではなく身近に相談できる大学生とは初対面から気が合います。大学生ボランティアが責任感を持ちながら、あまり重荷に感じずに多く参加できる組織体制を構築する事が課題です。
7．今後の展開	現在の社会状況では、安定した生活のために学歴は非常に大切です。家庭のバックの力が弱い子どもほど基礎学力と学歴を付けることが貧困の連鎖を食い止める鍵ですが、今は学費の高さだけでなく給付型奨学金制度も十分整備されていません。今後は教育・福祉について専門的知識を持つ方々との連携を図り、子どもがお金の心配なく安心して学べる環境作りにも活動の幅を広げていきたいと思います。
8．補助制度に対しての意見・感想	厚労省も 2012 年度から脱貧困連鎖へ向け生活保護受給家庭の子どもへの学習支援予算を拡大している反響からか、多くの他団体から公の補助金活用について質問を求められました。ぜひ今後も補助制度を拡充してください。

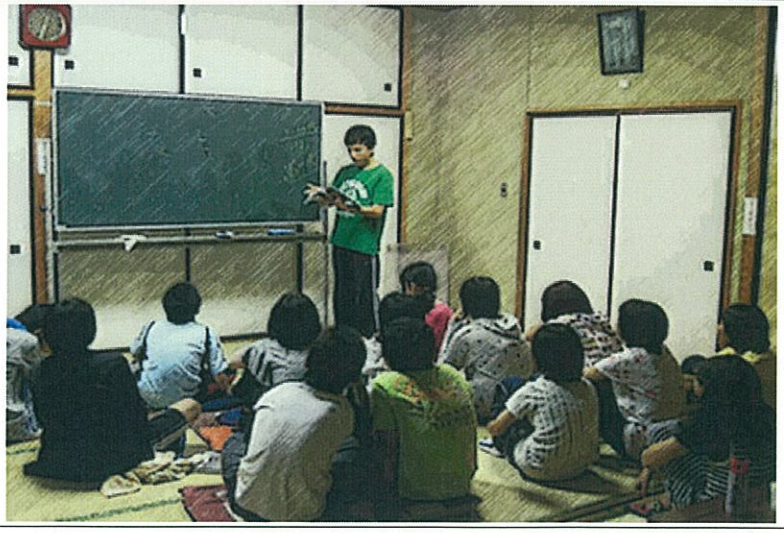
★ 団 体 紹 介 ★

貧困の連鎖を、学習支援という形で断ち切ろうという活動がタダゼミの活動です。
参加している子どもたちは「来年は自分が、ここで教える」とボランティアのリレーが育っています。

プロである学校教師でも塾教師でもない地域の一般市民と学生が講師をつとめる事で、地域で資源が循環し、世代を超えた地域の人たちへの信頼を作りだしています。

HP: http://www.9zemi.com

mail: kodomonomanabi@9zemi.com



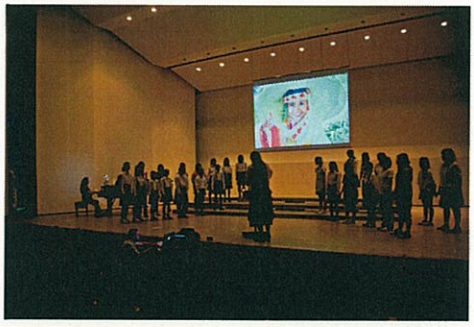
H23

チャレンジ事業

地域活性化促進事業費補助金 取組事例 ②

団体名	ＮＰＯ法人　みのぶジュニアコーラス
代表者名	山本　晴美
所在地	山梨県南巨摩郡身延町角打９５

１．事業名	うた声とひびきあう、世界を歩く表現者とのＰＥＡＣＥプロジェクト
２．実施期間	平成２３年６月ー平成２３年７月
３．補助金額	２６０，０００円（事業費５２１，４６７円）
４．事業概要	世界の紛争地を歩き、そこで生きる子どもたちの笑顔や人の生き方を撮り続けているフォトジャーナリスト長倉洋海さんをゲストにお迎えして、平和への想いや長倉氏自身の生き方、世界を舞台とした夢の実現への行動などを講演していただいた。同時に「愛と平和」をテーマとした子どもたちの合唱と長倉氏の映像のコラボレーションやステージ上で長倉氏と子どもたちのミニディスカッションを行った。長倉氏が企画する「アフガニスタン山の学校」写真展も同時に開催した。



5.　得られた成果	宣伝期間が短かったため集客に心配があったが、メディア関係に取り上げていただいた効果もあり、県内外から「MJ コンサートははじめて」という方々にも多数の参加があり、目標の３００人を越える事が出来た。ゲストの映像と子ども達の合唱コラボレーションは取り組み以上の相性のよさと相乗効果で大変好評をいただいた。講演内容も聞き易く、世界の「今」をリアルに感じながら、子どもにも大人にもそれぞれのメッセージのある内容で、観客の集中力をそらさなかった。同時開催の「アフガニスタン山の学校」のパネル展もコンサートの前後を過ごす導入と余韻を楽しむために充分な成果があった。
6. 課　　題	夏休みや休日と言えど、学校行事や部活動と重なり多くの子どもたちに声をかけたが参加が難しかった。学校との連携も考えて行きたい。少子化にともなう団員の減少は課題でもあるが、MJ の技術向上だけではない合唱活動の趣旨の理解と音楽体験の幅の広さで、地域の子どもたちの育ちの場として継続していきたい。
7. 今後の展開	活動１５周年記念コンサートを終わらせ、国民文化祭にむけ、県外にもアピールできるような企画と力をつけ、身延から広い地域へ、テーマである「生きるちから」を発信出来る活動を展開していきたい。
8. 補助制度に対しての意見・感想	日頃の活動からステップアップし、さらに夢がある濃度の高い活動を実現していくためにはありがたい制度でした。

★ 団 体 紹 介 ★

学校・年齢の枠をこえ「子どもたちのうた声響く、平和で元気な町づくりと笑顔づくり」をめざし平成8年に設立。合唱技術向上だけを目的とせず「愛・平和・こころ・自然」をテーマに、心象表現と伝わる歌声を志しています。音楽活動は平和と文化の創造、未来を担う子どもたちの健やかな成長と「生きるちから」を育むことにつなげます。山本直純ジュニアフィルハーモニックオーケストラ、ウィーン少年合唱団ジョイント、「音楽から学んだ平和コンサート」を身延と広島で開催。定期コンサートや身延のお寺の境内をステージに、夜桜とのコラボレーションコンサートの他、県内外のイベントやコンサートも数多く参加、企画。活動はメディアにも多数紹介される。三枚の CD「こころのきおく」「生きるちから」「つぼみ」を自主制作。

H23

チャレンジ事業

地域活性化促進事業費補助金 取組事例 ③

団体名	ＮＰＯ法人　芸術文化振興センター
代表者名	佐々木　啓吉
所在地	山梨県大月市富浜町鳥沢２７４２

１．事業名	第１回『富士讃美展－富士を表現する作家達－』と講演会
２．実施期間	平成２３年７月～平成２３年８月
３．補助金額	２３１，０００円（事業費４６２，３３５円）
４．事業概要	分野を問わず山梨県ゆかりの作家達のネットワークによる展示会と講演会を実施。 **1. 展示会『富士讃美展』**はテーマを「富士を表現する」ことに絞り新鋭から巨匠まで30名の作家が出展した。県内外の出展者と来場者の増大を意図し、山梨の富士をともに讃美することからアートへの関心と芸術への意識を醸成させることを目的とした。 **2. 講演会「なぜアーティストは富士に魅せられるのか」**は『富士と北斎』（講演：井澤英理子氏）『作家における富士』（鼎談：版画家・河内成幸、洋画家・櫻井孝美、井澤氏）をテーマとした。かの北斎の計算された構図と色彩の探求と、富士を描く画家の立場からの画題としての富士論が展開された。 期間中アーティストと一般来場者によるワークショップを実施した。
５．得られた成果	1. 分野を問わずアーティストのネットワークを構築すること。 普段は会話することもはばかれる新鋭から巨匠までが交流をできる機会を設定し、講演会やオープニングパーティなどで芸術や技術の論議が交わされ、作家同士の士気が向上した。（出展者内訳　県内在住者 19 名、県出身者 12 名） 2. 日常生活においてアートは身近なもので潤いと癒しを醸すものであることの啓蒙活動とぶどうの丘施設利用度向上による地域・施設への経済効果の役割。 多くの来場者（2,315 名―ぶどうの丘調べ）を得た（うち県外からは 42%で約 1,000 名）。地域活性化の一助を担うことができた。多くの方からの感想として、「展示会のクオリティも高く、また他分野の作家が日本人の心の富士をどう表現したかが大変興味を引いた」との声が多く総じて評判が良かった。 ワークショップを開催。絵画・陶芸・手織の作家が一般来場者向けに展開した。一般来場者の受講は絵画 6 名、陶芸 18 名、手織 12 名が参加。

	3. テストマーケティング「アーティストと地域産業」 ぶどうの丘は『ワイナリー』の集合体である。アートとワインラベルのコラボレーションを試みた。作家の出展作品 12 点をワインラベルに登用し、実際にデザインし、ワインに添付し展示した。ワイナリーに告知し、来場された方もあったが、残念ながら引き合いはなかった。
6. 課　題	「芸術」という言葉と生活者の間には大きな溝がある。『芸術とは生活文化のことである』と私どもは定義づけ、その啓蒙活動に注力してきた。日常生活において潤いと安らぎと癒しにアートは欠かせないものと理解し、その 1 つとして生活提案をすべく、アーティストと地域産業との連携を心がけている。今回「地域活性化」のキーワードのもと、テスト的にアーティストの作品をワインラベルに使用してみた。ワイナリー関係者の反応は定かではなかったが、決して非なる結果ではないと考えている。ワイナリー関係者とここにあたり、ニーズを把握し対応することが必要であり課題である。
7. 今後の展開	平成 25 年は『第 28 回国民文化祭・やまなし 2013』の開催年に当たる。その応援事業として『第 2 回富士讃美展』を計画している。会場・日程はまだ決まっていないが、難関の会場設定によって詳細を計画することになる。富士山は今、世界遺産登録に向けて一歩前進している状況下にあるが、富士は日本人にとって古来より芸術における最大の画材としてある。今後も富士をテーマに美の探究を進めたい。展示会・講演会を通して身近な生活文化への提案と生活者のアート心醸成のための機会づくりを目指したい。
8. 補助制度に対しての意見・感想	この補助金制度は私どもにとって大変有効でした。現在、職業は作家ですという人は数少ない。貨幣経済の進展はプロ作家を育てる環境にない。展示会に出展する出展料の支払いもままならない状況下にあり、この補助金制度によって出展料を低価格に抑えることができた。会場費など諸費用の根源の出展料は低所得作家にとってはまだまだきつい。補助比率アップは考えられないだろうか。『山梨芸術の質の高さとパワー』をアピールするため県外（東京・銀座）で事業展開をしているが、制度全般としてこのような事業への補助制度は考えられないものであろうか。

★ 団 体 紹 介 ★

この法人は青少年・シニアを中心に広く一般市民を対象として、芸術・文化およびスポーツの振興のため啓蒙・普及・育成するための支援振興事業を行う。芸術家・文化人・知識人・スポーツ人による小中学生への課外授業などを通じての育成事業、シニア・一般住民に向けての講演会・芸術展示会・音楽会・セミナー教室などを通じての生涯学習事業や、その実施場所である公共施設の活性化のための運営事業などを展開することによって情操豊かな人間の育成と潤いのある芸術文化の啓蒙・普及を図り実りある社会の実現に寄与することを目的とする。

この目的のための根幹となる実施している事業

1. ワークショップ「アーティストとこどもたち」とその展示会の開催
2. 山梨ゆかりの作家、新鋭から巨匠までが出展する「アート・ランダム作品展」の開催
3. アート・カルチャー・フォーラムを適時開催

H23

チャレンジ事業

地域活性化促進事業費補助金 取組事例 ④

団体名	トム・ソーヤー倶楽部
代表者名	広瀬　靖行
所在地	甲州市塩山

1．事業名	セルフビルドコンポストトイレによる循環型社会推進事業
2．実施期間	平成２３年９月～平成２４年３月
3．補助金額	２８０，０００円（事業費５６０，０００円）
4．事業概要	■パーマカルチャー体験ワークショップの実施 ・平成23年10月15日（土）16日（日） ・講師：四井真治氏（ソイルデザイン代表・パーマカルチャーデザイナー） パーマカルチャーとは、パーマネント(permanent:永久の)とアグリカルチャー（agriculture:農業)という言葉を掛け合わせた造語で、恒久的持続可能な環境を作り出すためのデザイン体系のことをいいます。四井氏による講義とフィールドワークを行い、生活の中にある循環の仕組みについて考えていました。 ■　コンポストトイレ製作ワークショップの実施 ・　平成23年11月12日（土）　講師：四井真治氏 本事業の主軸であるコンポストトイレ（バイオトイレ)。畑で取れた作物を我々が食し排泄する。その有機物を堆肥化して畑に還してあげることで、循環が生まれます。コンポストトイレを都市農村交流で運営する畑に作ることで、循環の仕組みを多くの人に体験してほしいと実施しました。(年度内完成予定)

	■　堆肥・簡易型コンポストトイレ製作ワークショップ ・　平成24年1月22日（日）講師：四井真治氏 堆肥についての講習と併せて、簡易型のコンポストトイレの製作ワークショップを実施しました。畑に作った型とは異なりコンパクトな形状で持ち運びも可能です。参加者は家庭や工房、アウトドアで活用してみるということです。
5.　得られた成果	生活の中で活かせる循環の仕組みが体験できたと、参加者から好評をいただきました。参加者同士で情報交換できる仲間づくりができました。テレビで製作の模様を放映していただいたり、この事業がきっかけで雑誌に掲載されたりと、少しずつではありますがコンポストトイレが注目されるようになりました。家庭や別荘でも使い始めたという実践者も出てきています。
6．課　　題	目標とした参加人数が集められませんでしたので、集客方法に工夫が必要です。 今後は関連する団体やネットワークを活かして、ＰＲ活動を行っていきたいと思います。
7．今後の展開	畑に製作しましたコンポストトイレは、欧州では例があるものの日本ではあまりない型式で、今後の研究の拠点としても機能していきたいと思います。 また、循環のある暮らしのワークショップを継続して行い、循環型社会の啓発を行っていきたいと思います。
8．補助制度に対しての意見・感想	この制度を利用できたことで、当倶楽部の事業の一つが円滑に実施することができました。 関連する県の機関からの協力が得られるようにしていただけると、更なる効果が期待できるように思いました。

★　団　体　紹　介　★

トム･ソーヤー倶楽部は、甲州市塩山北部の耕作放棄地を再生して、地元住民や首都圏に住む人々と農的田舎暮らしを実践するフィールドづくりと仲間づくりを行っています。無農薬の野菜をはじめ、小麦・ライ麦・青大豆などをつくりながら、ツリーハウス･ドームハウスのセルフビルド、築 200 年の古民家体験、石窯づくり体験、ハンモックと森林浴のフィトセラピー体験などを行っています。ヨガや整体、マクロビオティック、お菓子作りなど、スローライフに関心のある仲間が集まっています。只今メンバーを募集しています。農的田舎暮らし･スローライフを体験したい方、得意分野を活かしたプログラムをコラボしてみたい方、トム･ソーヤー倶楽部に遊びにきてみませんか？興味のある方は、お気軽にお問い合せください。

連絡先：090-9018-1650（担当：広瀬）
メール：tomsawyer-club@rainbow.plala.or.jp
ブログ：http://ameblo.jp/tomsawyerclub/